

2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表2-1 44項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.8点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	78.2	⇒	
2位	(3位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	76.8	➡	
3位	(2位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.2	⇒	
4位	(8位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	75.0	➡	
5位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.5	➡	
6位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	74.4	⇒	
7位	(4位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	73.8	⇒	
8位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.6	⇒	
9位	(11位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	72.7	➡	
10位	(10位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	72.5	⇒	
11位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	72.4	➡	
12位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	72.3	➡	
13位	(21位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	72.0	➡	
14位	(14位)	横断的取組	健康管理	71.9	⇒	
15位	(13位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	71.7	⇒	
16位	(25位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	71.0	➡	
17位	(25位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	70.8	➡	
18位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.6	⇒	
18位	(20位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	70.6	➡	
20位	(25位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	70.5	➡	
21位	(23位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	➡	
22位	(19位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.1	⇒	
23位	(14位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	70.0	⇒	
24位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	69.8	⇒	
25位	(24位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	69.6	⇒	
26位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	69.2	⇩	▼
27位	(32位)	基盤的取組	行政経営	68.2	➡	
27位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	68.2	➡	
29位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	67.8	➡	
30位	(30位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	67.5	⇒	
31位	(22位)	横断的取組	風評の払しょく	67.2	⇒	
32位	(33位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	67.1	➡	
33位	(31位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	67.0	⇒	
34位	(38位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	66.6	➡	
35位	(36位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	66.5	➡	
36位	(33位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	66.4	⇒	
37位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	66.1	⇒	
38位	(41位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	66.0	➡	
39位	-	基盤的取組	SDGs	65.3	-	
40位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	65.1	⇒	
41位	(39位)	II. 交流・観光の未来	観光	64.8	⇒	
42位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	64.6	⇒	
43位	(42位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	62.7	⇒	
44位	(43位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	61.8	⇒	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表2-1参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40) \div \text{無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」159人、「どちらかといえばよい」298人、

「どちらかといえば不満」97人、「不満」59人ですと、

$$\frac{159 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 298 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 97 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 59 \text{ 人} \times 40 \text{ 点}}{613 \text{ 人}}$$

613人

≒78.2

※平均得点=78.2点となります。

※2019年度より「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「自然環境」「医療」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「自然環境」「医療」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から11年経過し、市民の認知度が高いこと、また、「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていることなどが、満足度につながっていると考えられます。

「自然環境」については、猪苗代湖を含む「磐梯朝日国立公園」をはじめ、阿武隈山地、奥羽山脈など、緑豊かな自然に恵まれており、郡山市環境基本条例に基づいて生物多様性や森林、農地の保全のほか、公園・緑地の整備など、自然と共生できるまちづくりに取り組んでいることが、高い満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「広聴広報」「スポーツ・文化・芸術」「地域コミュニティ」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「広聴広報」では、2019年3月にウェブサイトを更新し、より情報が伝わりやすく利便性を向上するとともに、ソーシャルメディアやアプリを活用するなど、広報の多チャンネル化により、より広く市政情報の発信をすすめています。また、手軽に投稿できるアプリケーションの活用など、市民提案がしやすい環境を整備し、市民参画を推進しています。

「スポーツ」では、充実したスポーツ施設環境や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした市民参加型のイベントの実施、プロスポーツの開催やチームとの連携による様々な事業を展開しています。

「地域コミュニティ」では、郡山市自治会連合会と協働により、町内会加入促進キャンペーンを実施し、町内会への加入促進に取り組むなど、町内会組織強化の支援を行っています。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「誰もが地域で輝く未来」の71.5点、次いで「学び育む子どもたちの未来」の70.5点、「暮らしやすいまちの未来」の69.9点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	71.5
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	70.5
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.9
4位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	69.6
5位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	68.3
6位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	68.0
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	67.8

過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
2012	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
2011	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策
2010	生活環境	医療体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表2-4 44項目（施策）の重要度ランキング

平均割合10.8%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	36.4	⇒	
2位	(2位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	35.4	⇒	
3位	(3位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	33.2	⇒	
4位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	22.7	⇒	
5位	(13位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	22.0	➡	
6位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	19.9	➡	
7位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	18.4	⇒	
8位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	16.7	➡	
9位	(5位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	15.9	➡	
10位	(6位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	15.5	➡	
11位	(11位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	15.3	⇒	
12位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	14.9	➡	
13位	(8位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	13.8	➡	
14位	(14位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	13.2	⇒	
15位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	12.3	⇒	
16位	(16位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	12.1	⇒	
17位	(18位)	横断的取組	風評の払しょく	11.9	➡	
18位	(17位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	11.3	➡	
19位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	9.1	➡	
20位	(23位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	8.9	➡	
21位	(20位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	8.8	➡	
21位	(19位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	8.8	➡	
23位	(29位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	8.1	➡	
23位	(21位)	横断的取組	健康管理	8.1	➡	
25位	(21位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	7.3	➡	
26位	(27位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.0	➡	
27位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.8	➡	
28位	(26位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	6.1	➡	
29位	(32位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	6.0	➡	
30位	(30位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	5.7	⇒	
31位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.4	⇒	
32位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	4.9	➡	
32位	(34位)	基盤的取組	行政経営	4.9	➡	
34位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	4.6	➡	
35位	(36位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.9	➡	
36位	(32位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	3.8	➡	
37位	(35位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	2.9	➡	
38位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	2.8	➡	
39位	(42位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	2.5	➡	
40位	-	基盤的取組	SDGs	2.2	-	
41位	(39位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.1	➡	
42位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	1.8	➡	
43位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.5	➡	
44位	(40位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.3	➡	

平均より高い



平均より低い



— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、市民生活に直結する項目であるとともに、国の「働き方改革」や社会的構造変化に伴う労働力不足への対応など、雇用・就労を取り巻く環境変化などから、昨年度に引き続き重要度が高くなったと考えられます。

「10年間の重要度上位3項目」において、「子育て」は2014年度から、「高齢者福祉」は2013年度から毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「防犯・交通安全・消費者対策」「交通・道路」「観光」です。

「防犯・交通安全・消費者対策」については、全国的に高齢者による重大事故が連日報道され、市民の交通安全意識が高まるとともに、市内では小学生への声掛け事案が相次ぐなど、防犯に対する意識も高まり、重要度が高くなったと考えられます。

「交通・道路」では、今後、ますます深刻化する高齢化社会において、高齢者ドライバーによる事故増加への懸念などから、安全確保に向けた取り組みや公共交通への期待が高まりつつあるものと考えられます。

「観光」においても、国内の訪日外国人旅行者数が過去最高を更新していることや福島空港の台湾定期チャーターの就航など、インバウンド関連のニュースが増えてきていることから、地域経済の活性化に向けて、市民の観光への関心や期待が高まり、重要度が上昇したのと考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」は重要度が比較的高い分野で15.4%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

表 2-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	17.5
2位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	15.4
3位	Ⅵ. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	11.3
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	10.1
5位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	10.1
6位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	9.1
7位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	2.8

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

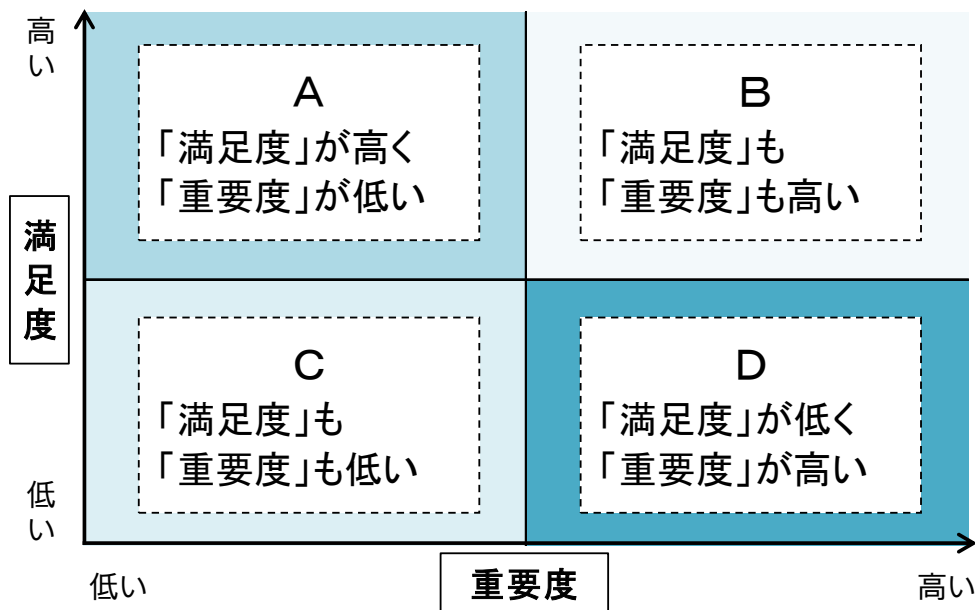
表 2-6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
2012	医療体制	生活環境	保健予防体制
2011	生活環境	医療体制	ごみ対策
2010	医療体制	生活環境	ごみ対策

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては、前出20頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

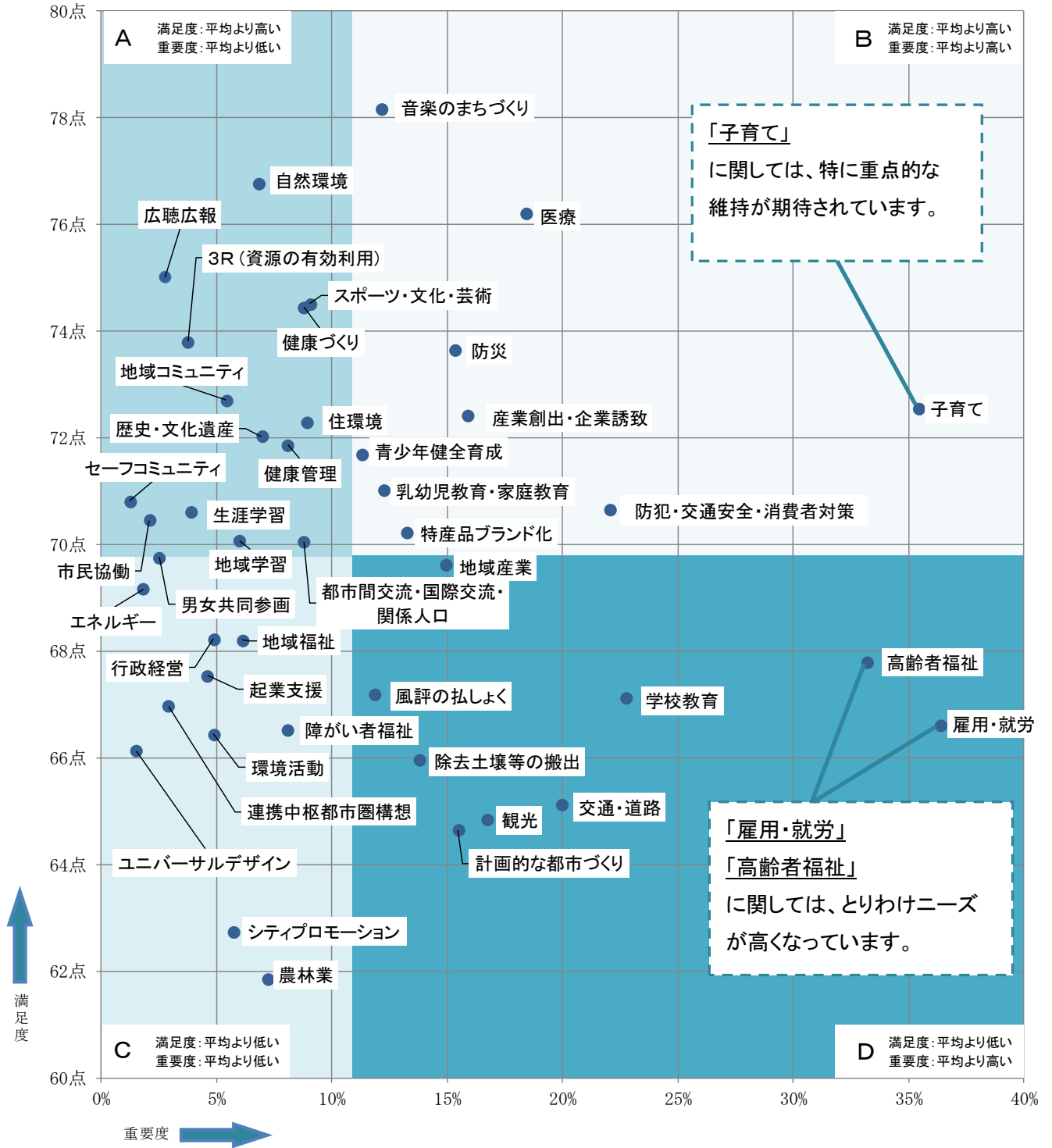
重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図 2-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

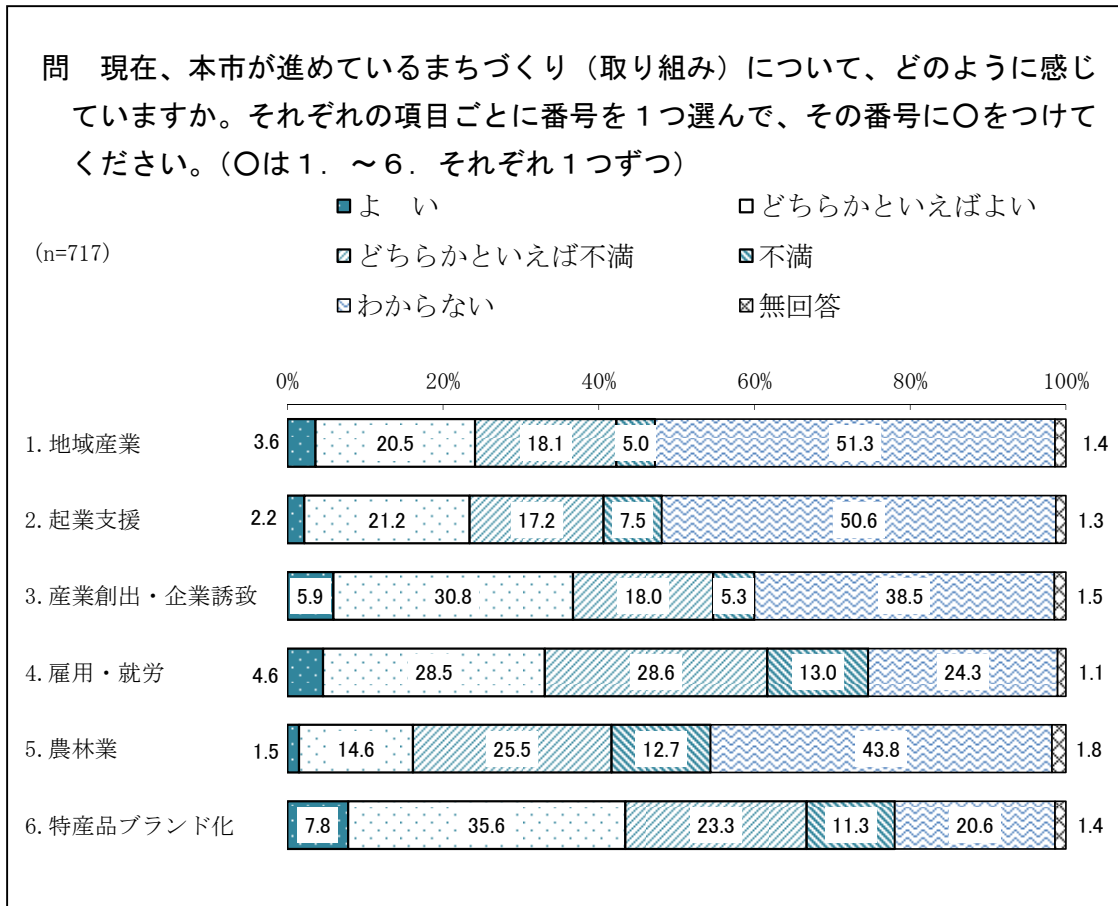


—— 「雇用・就労」「高齢者福祉」に関して
優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「高齢者福祉」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（43.4%）でした。以下、『3. 産業創出・企業誘致』（36.7%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（41.6%）でした。以下、『5. 農林業』（38.2%）、『6. 特産品ブランド化』（34.6%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『1. 地域産業』（51.3%）と『2. 起業支援』（50.6%）で過半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

市特産品の「鯉」や郡山産米「あさか舞」、果樹農業の6次産業化による郡山産ワインの誕生など、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、市民への浸透や全国的な知名度の獲得を目指した、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。(図 2-2 参照)

平均得点をみると、『3. 産業創出・企業誘致』が 72.4 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(61.8 点) でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを下記に掲載しました。(表 2-7 参照)

図 2-2 産業・仕事の未来への満足度<平均得点> (全体)

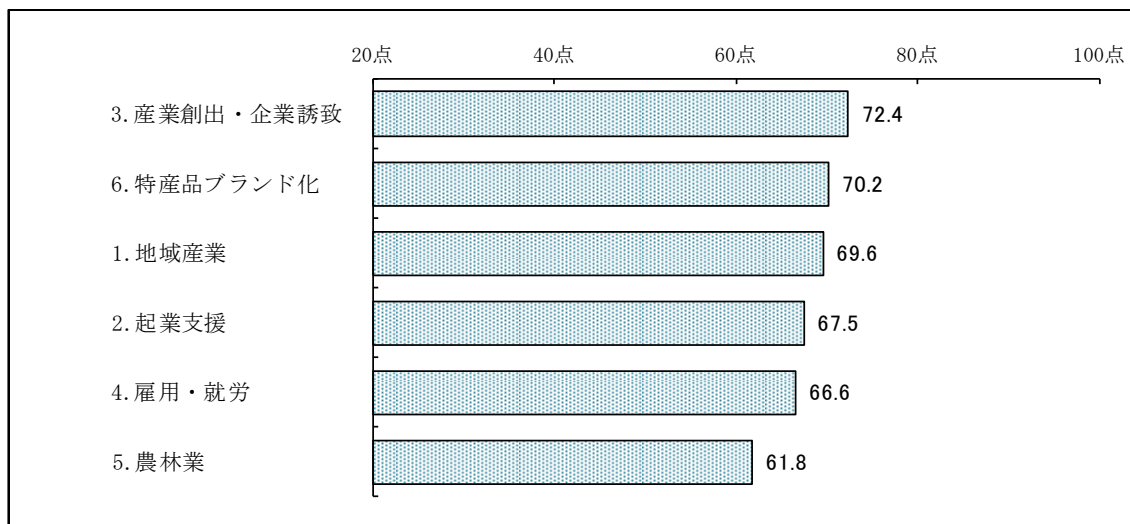
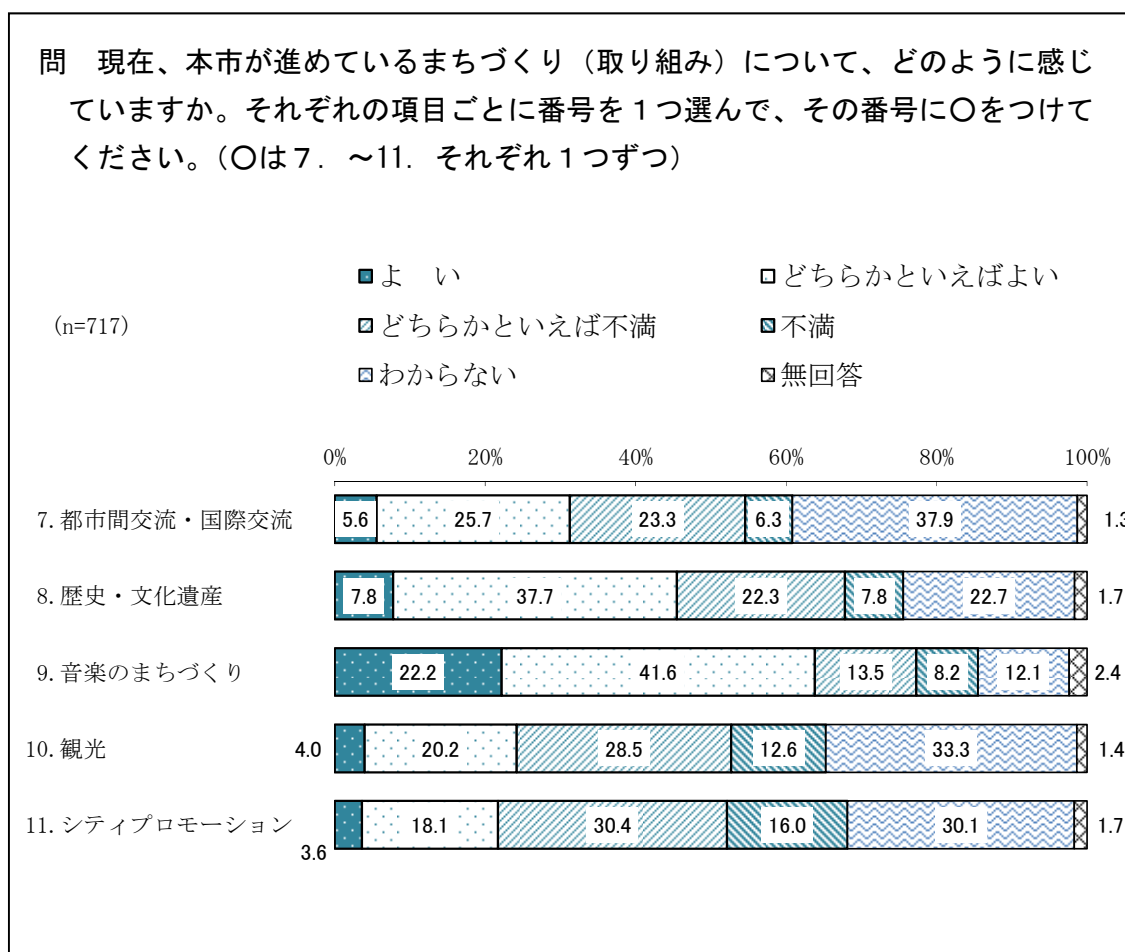


表 2-7 産業・仕事の未来への満足度<性別、年代別平均得点の上位 3 つ>

	男性	女性
1位	産業創出・ 企業誘致 (71.8点)	産業創出・ 企業誘致 (72.8点)
2位	地域産業 (69.6点)	特産品 ブランド化 (71.4点)
3位	特産品 ブランド化 (68.6点)	地域産業 (69.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	特産品 ブランド化 (80.0点)	特産品 ブランド化 (75.9点)	産業創出・ 企業誘致 (71.5点)	産業創出・ 企業誘致 (72.7点)	産業創出・ 企業誘致 (72.9点)	産業創出・ 企業誘致 (71.1点)	地域産業 (74.8点)
2位	雇用・就労 (74.0点)	産業創出・ 企業誘致 (74.2点)	特産品 ブランド化 (70.6点)	特産品 ブランド化 (67.3点)	特産品 ブランド化 (72.2点)	地域産業 (69.6点)	産業創出・ 企業誘致 (73.6点)
3位	産業創出・ 企業誘致 (73.3点)	雇用・就労 (68.5点)	起業支援 (67.8点)	地域産業 (65.2点)	地域産業 (70.5点)	特産品 ブランド化 (68.0点)	起業支援 (70.6点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）
への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは
『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（63.8%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（45.5%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.4%）となっています。

性別、年代別においては、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっています。「音楽都市宣言」から11年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催、東京藝術大学との連携(2016～)事業など多様な取組により市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が78.2点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（62.7点）でした。
 なお、性別、年代別平均得点の上位3つを下記に掲載しました。（表2-8参照）

図2-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

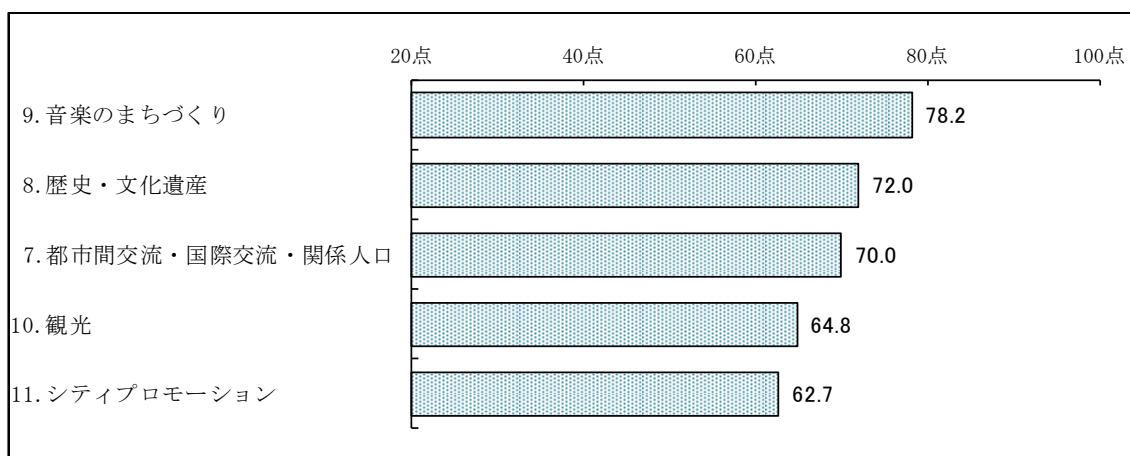


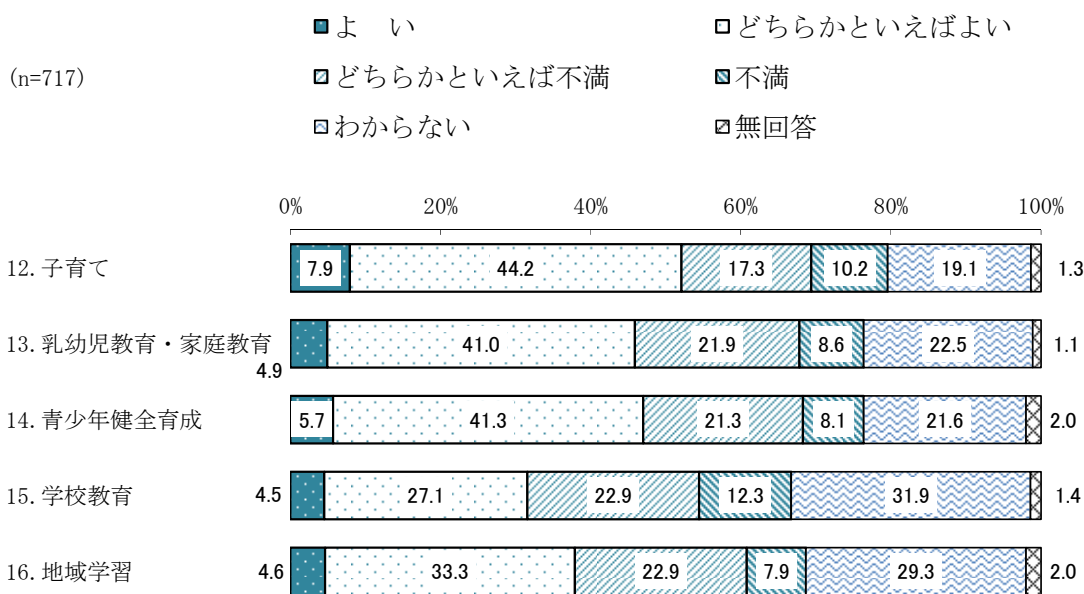
表2-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽の まちづくり (76.5点)	音楽の まちづくり (79.4点)
2位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (70.9点)	歴史・ 文化遺産 (73.0点)
3位	歴史・ 文化遺産 (70.7点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	音楽の まちづくり (81.7点)	音楽の まちづくり (82.6点)	音楽の まちづくり (77.9点)	音楽の まちづくり (76.6点)	音楽の まちづくり (75.6点)	音楽の まちづくり (76.2点)	音楽の まちづくり (82.7点)
2位	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (80.0点)	歴史・ 文化遺産 (75.5点)	歴史・ 文化遺産 (72.6点)	歴史・ 文化遺産 (71.3点)	歴史・ 文化遺産 (71.6点)	歴史・ 文化遺産 (68.5点)	歴史・ 文化遺産 (75.9点)
3位	歴史・ 文化遺産 (80.0点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (73.3点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (68.0点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (69.9点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (71.2点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (66.5点)	都市間交流・ 国際交流・ 関係人口 (73.1点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は12.～16.それぞれ1つずつ）



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（52.1%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（47.0%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『15. 学校教育』（35.2%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が72.5点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（67.1点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-9 参照）

図2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

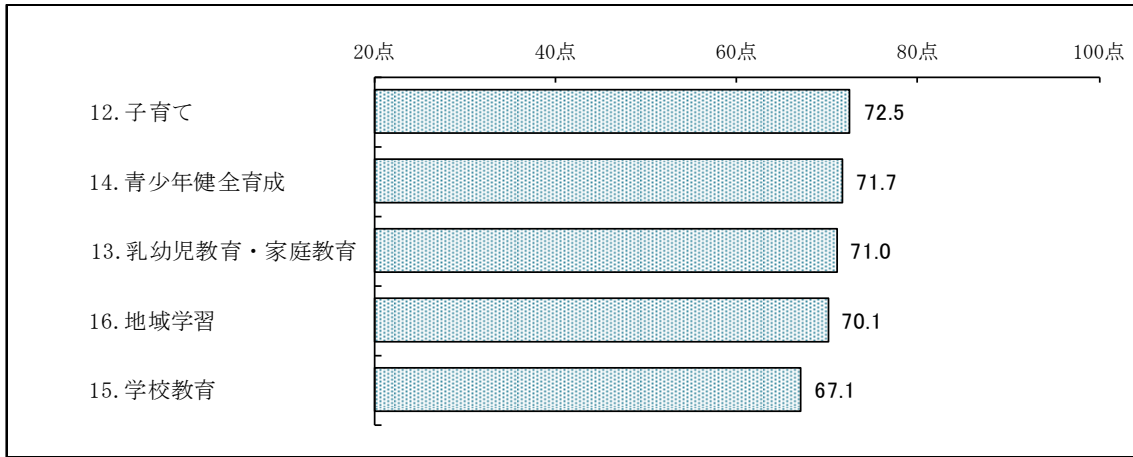


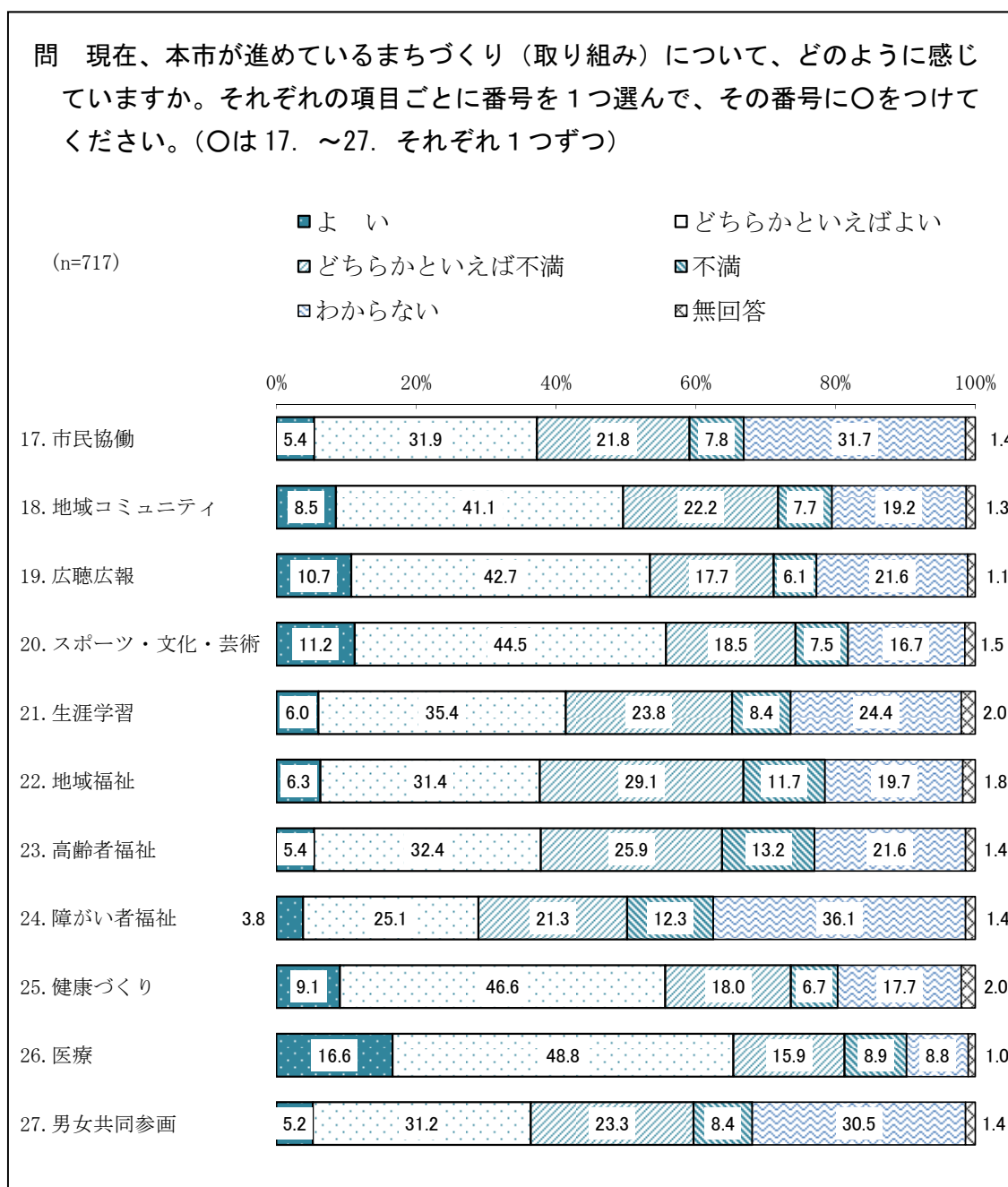
表2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	子育て (72.2点)	子育て (73.0点)
2位	青少年健全育成 (71.2点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (69.4点)	青少年健全育成 (72.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	地域学習 (82.2点)	地域学習 (74.1点)	地域学習 (72.7点)	子育て (72.7点)	子育て (74.4点)	子育て (70.9点)	子育て (74.9点)
2位	青少年健全育成 (80.0点)	子育て (72.6点)	青少年健全育成 (71.4点)	青少年健全育成 (72.2点)	青少年健全育成 (72.2点)	青少年健全育成 (69.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (74.9点)
3位	子育て (77.8点)	青少年健全育成 (71.2点)	子育て (70.1点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (68.8点)	青少年健全育成 (74.0点)

④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（65.4%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（55.7%）、『25. 健康づくり』（55.7%）が同率で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（40.8%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 76.2 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（66.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）中でも『26. 医療』に関しては、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査 平成 28 年 10 月 1 日現在」）、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われま

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

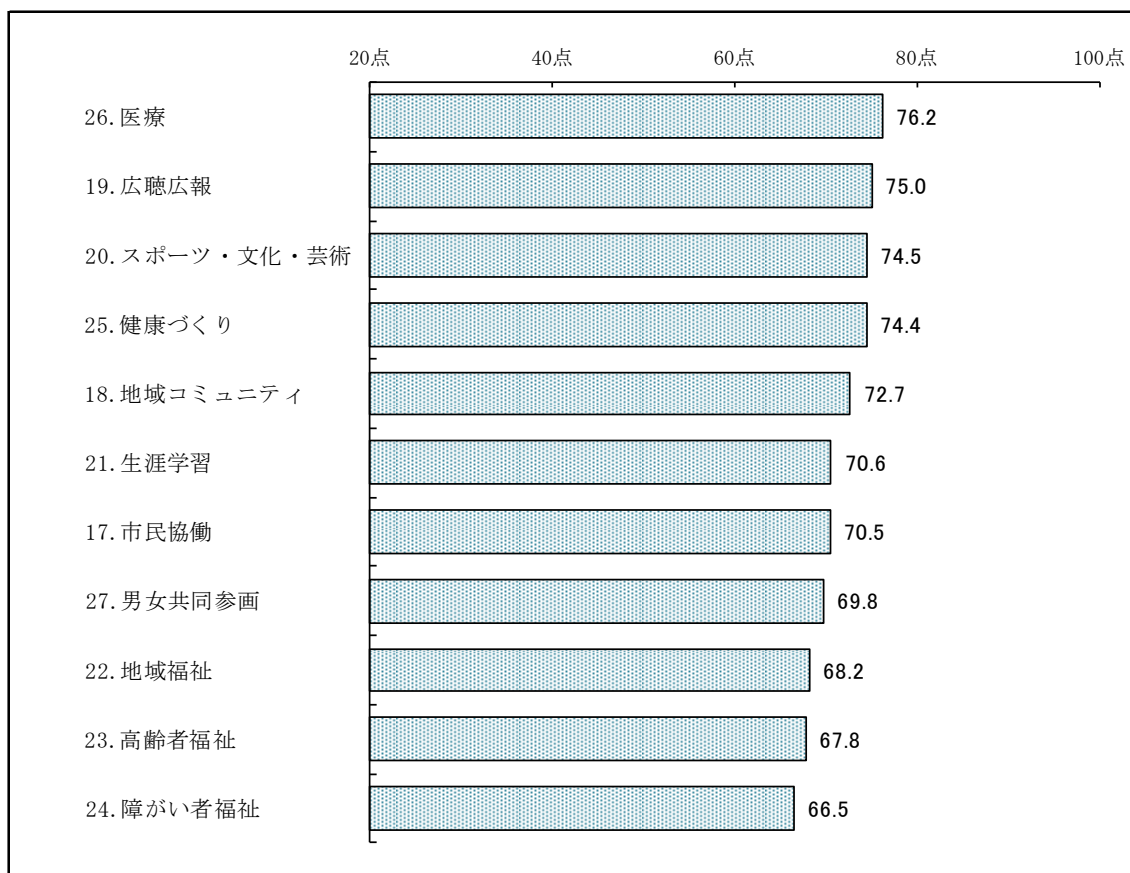


表 2 - 1 0 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (77.1点)	広聴広報 (75.8点)
2位	広聴広報 (74.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.5点)
3位	健康づくり (73.7点)	医療 (75.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	広聴広報 (83.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (82.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.2点)	広聴広報 (75.5点)	医療 (75.8点)	健康づくり (75.4点)	医療 (79.6点)
2位	地域福祉 (82.2点)	広聴広報 (79.5点)	広聴広報 (75.5点)	医療 (75.4点)	広聴広報 (74.8点)	医療 (74.7点)	健康づくり (78.1点)
3位	地域 コミュニティ (77.8点)	医療 (78.8点)	医療 (75.4点)	健康づくり (73.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.5点)

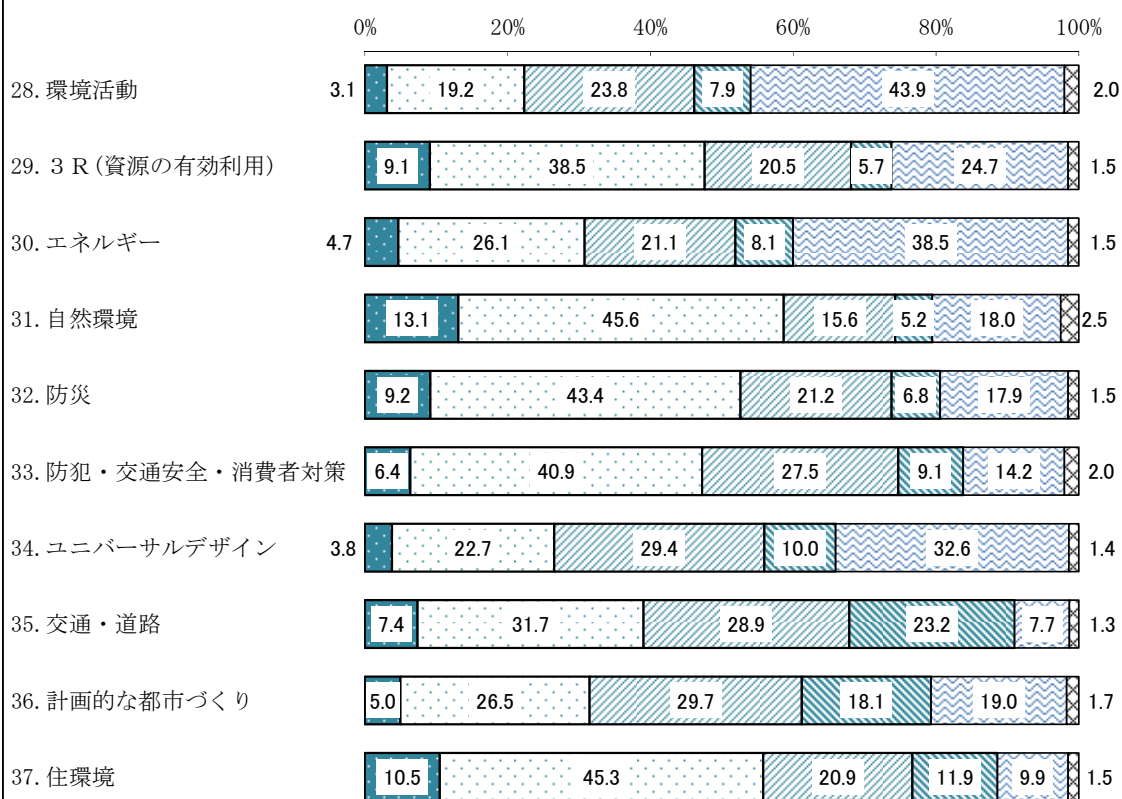
⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり(取り組み)について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。(○は28. ~37. それぞれ1つずつ)

(n=717)

- よい
- どちらかといえばよい
- ▨ どちらかといえば不満
- 不満
- わからない
- ▨ 無回答



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（58.7%）、『37. 住環境』（55.8%）、『32. 防災』（52.6%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『35. 交通・道路』（52.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 76.8 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（64.6 点）でした。

『32. 防災』『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均得点より高く、今後も防災・減災体制の整備やセーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-11 参照）

図 2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

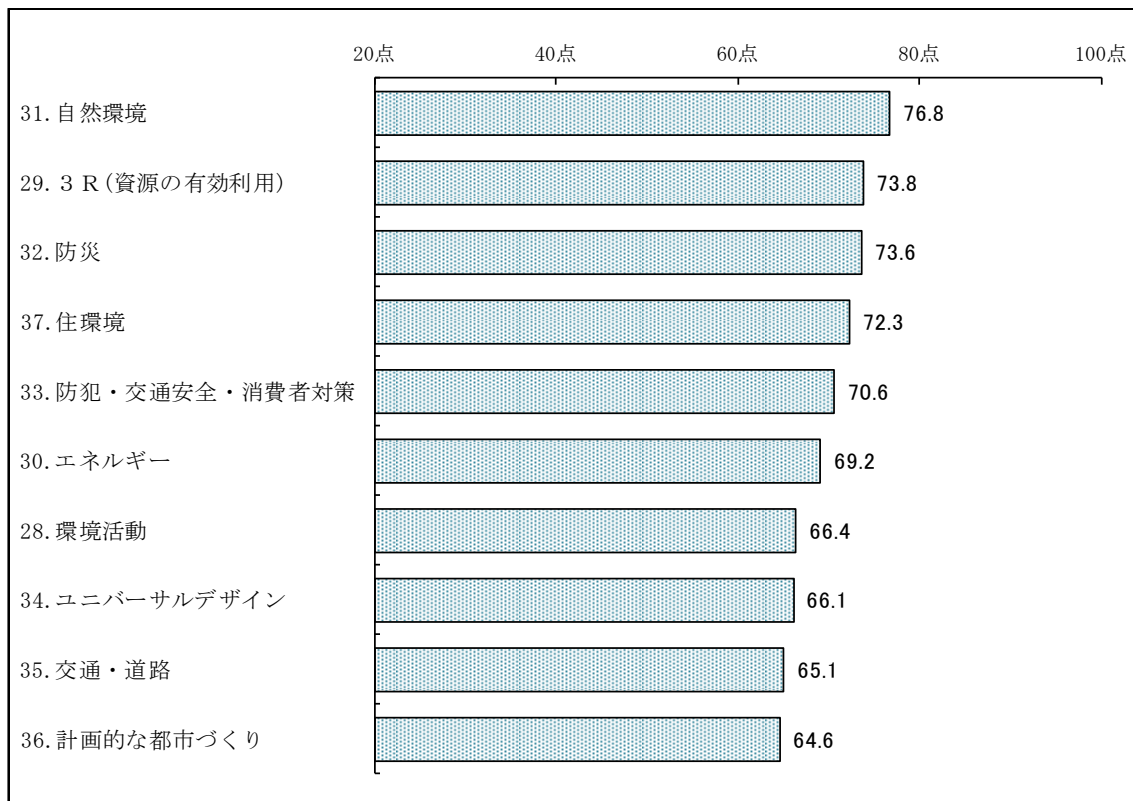
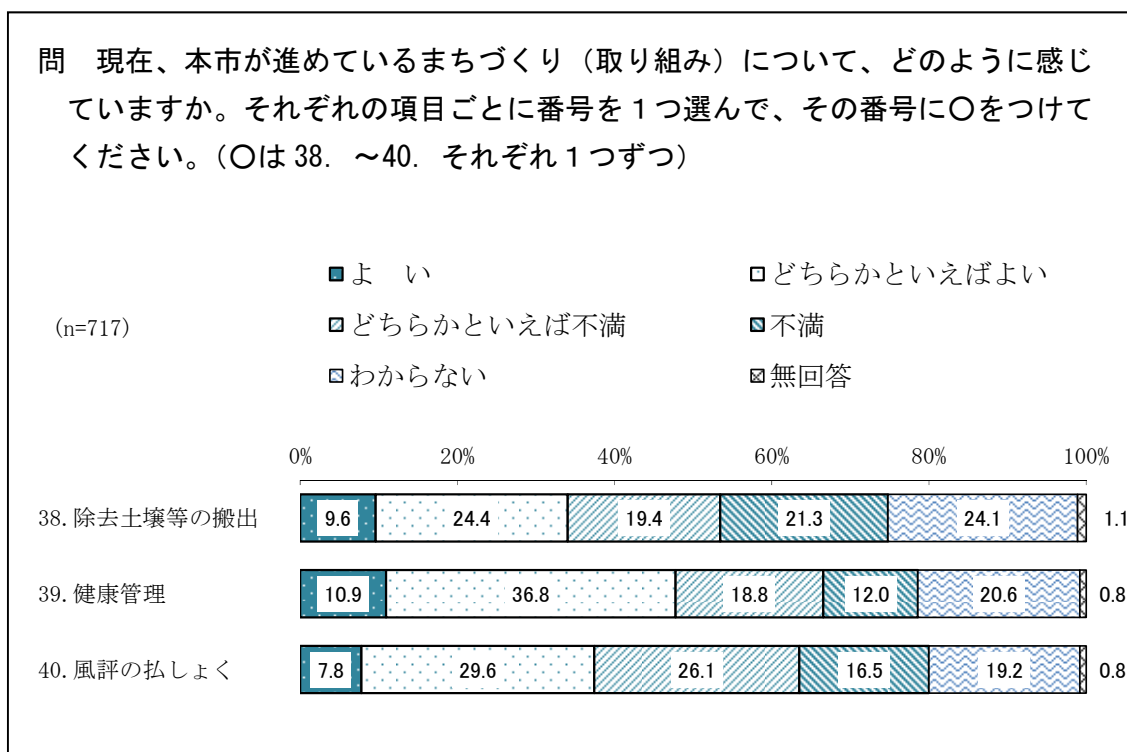


表 2-11 暮らしやすいまちの未来の満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	自然環境 (75.3点)	自然環境 (77.7点)
2位	防災 (72.4点)	3R(資源の有効利用) (74.8点)
3位	3R(資源の有効利用) (72.3点)	防災 (74.5点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	自然環境 (81.8点)	自然環境 (79.5点)	自然環境 (76.5点)	自然環境 (78.0点)	自然環境 (77.6点)	自然環境 (74.0点)	防災 (77.9点)
2位	3R(資源の有効利用) (78.0点)	3R(資源の有効利用) (73.8点)	住環境 (72.1点)	防災 (73.3点)	3R(資源の有効利用) (75.0点)	3R(資源の有効利用) (73.5点)	自然環境 (77.1点)
3位	エネルギー (76.0点)	ユニバーサルデザイン (73.3点)	防災 (71.9点)	3R(資源の有効利用) (72.2点)	防災 (73.7点)	住環境 (72.2点)	3R(資源の有効利用) (75.8点)

⑥横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『健康管理』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『39. 健康管理』（47.7%）です。東日本大震災から約8年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等につながってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（42.6%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が 71.9 点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『38. 除去土壌等の搬出』（66.0 点）でした。除染により発生した除去土壌等の早期搬出が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-12 参照）

図 2-7 横断的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

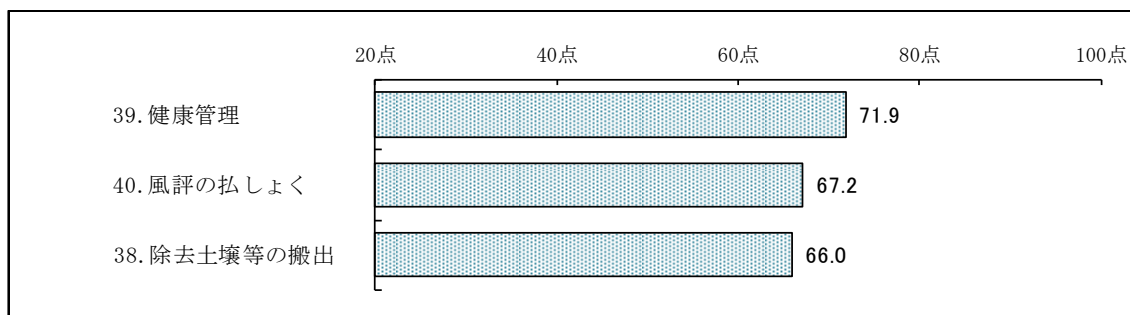


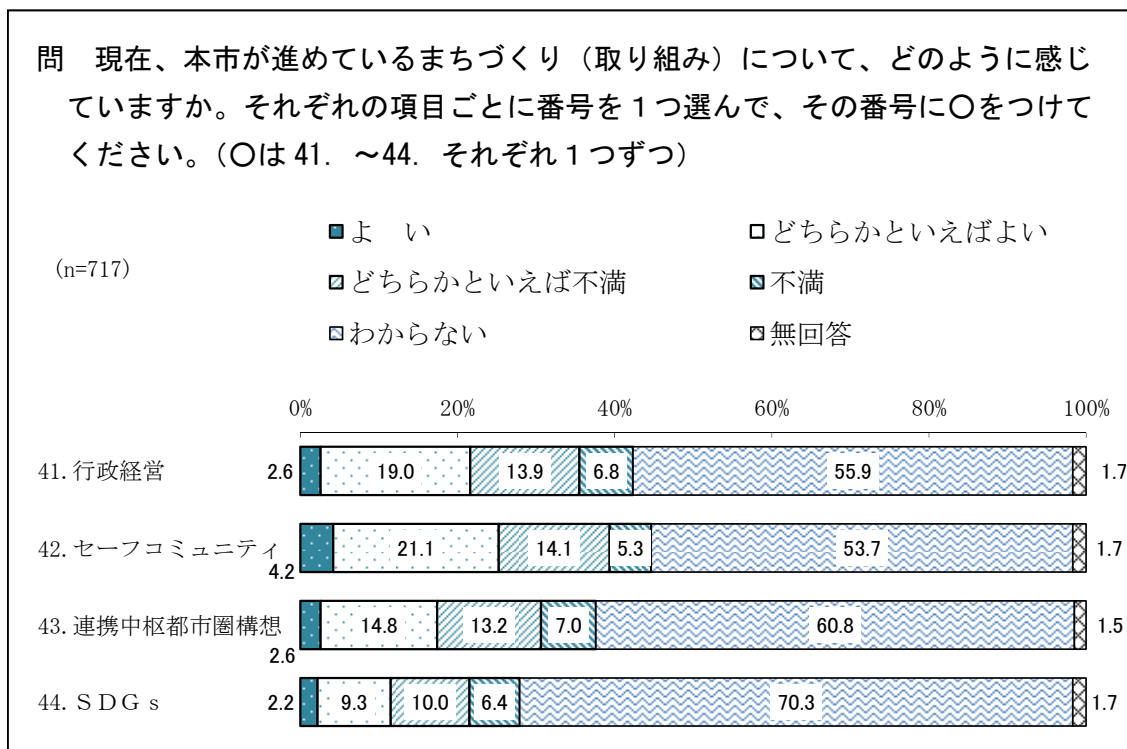
表 2-12 横断的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	健康管理 (70.6点)	健康管理 (73.2点)
2位	除去土壌等 の搬出 (66.3点)	風評の払しょく (68.3点)
3位	風評の払しょく (65.7点)	除去土壌等 の搬出 (65.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	健康管理 (80.0点)	健康管理 (79.0点)	健康管理 (73.3点)	健康管理 (70.9点)	健康管理 (74.6点)	健康管理 (69.7点)	健康管理 (69.5点)
2位	風評の払しょく (73.3点)	風評の払しょく (77.4点)	風評の払しょく (72.6点)	風評の払しょく (65.7点)	除去土壌等 の搬出 (67.0点)	風評の払しょく (64.2点)	風評の払しょく (65.2点)
3位	除去土壌等 の搬出 (70.0点)	除去土壌等 の搬出 (73.5点)	除去土壌等 の搬出 (70.3点)	除去土壌等 の搬出 (65.2点)	風評の払しょく (65.9点)	除去土壌等 の搬出 (62.9点)	除去土壌等 の搬出 (63.8点)

⑦基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs) への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『セーフコミュニティ』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. セーフコミュニティ』（25.3%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（20.7%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が半数を越えています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

セーフコミュニティ、連携中枢都市圏構想、SDGsについては、本市が近年取り組んでいる施策ですが、実施時期が早いほど「わからない」の割合が少なくなっています。そのため、具体的な事業推進により市民の認知度を高めることが重要と思われます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-8 参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が70.8点で最も高くなっています。一方で、最も低かったのは『44. SDGs』（65.3点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-13 参照）

図 2-8 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

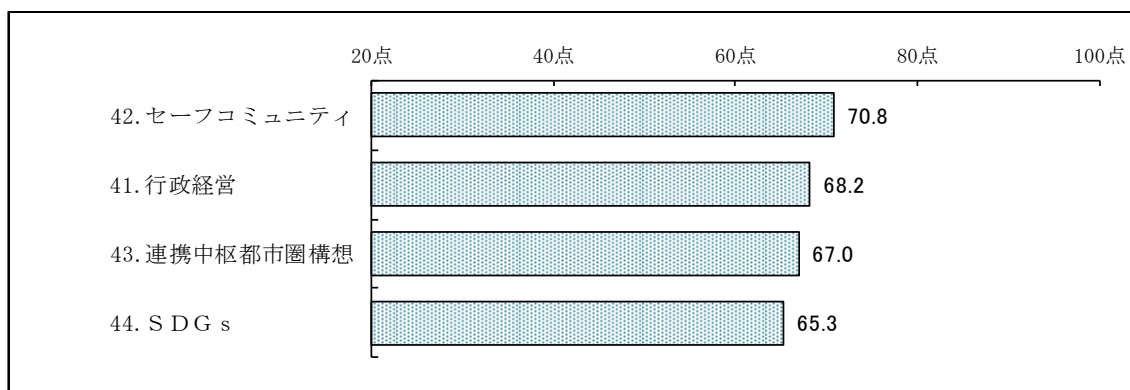


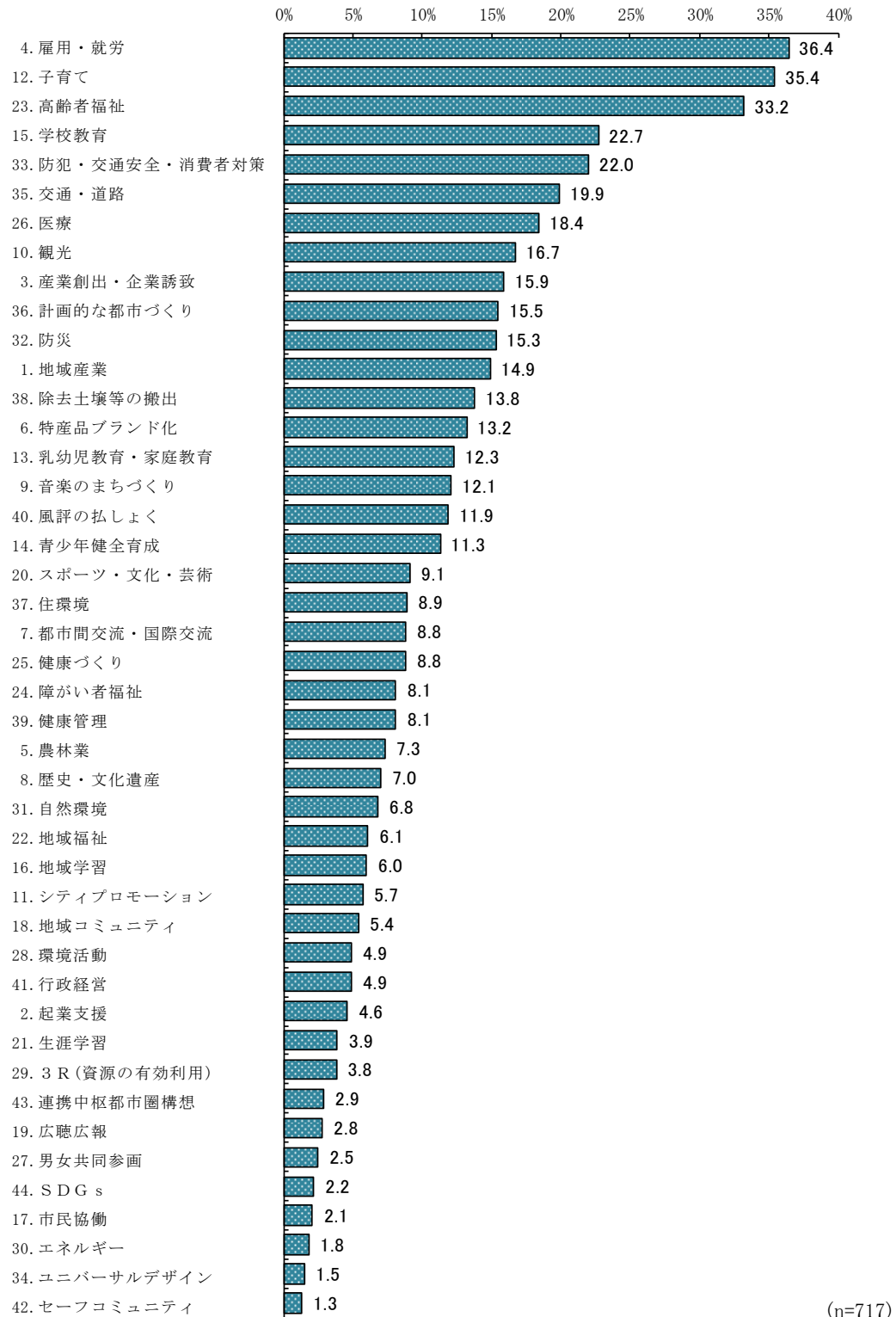
表 2-13 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	セーフ コミュニティ (69.4点)	セーフ コミュニティ (71.8点)
2位	連携中枢 都市圏構想 (67.9点)	行政経営 (68.2点)
3位	行政経営 (67.7点)	連携中枢 都市圏構想 (65.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	SDGs (80.0点)	セーフ コミュニティ (74.7点)	セーフ コミュニティ (71.2点)	セーフ コミュニティ (73.6点)	セーフ コミュニティ (70.5点)	セーフ コミュニティ (67.3点)	連携中枢 都市圏構想 (70.5点)
2位	セーフ コミュニティ (76.0点)	SDGs (71.6点)	SDGs (67.4点)	行政経営 (70.4点)	行政経営 (70.2点)	行政経営 (65.2点)	セーフ コミュニティ (69.4点)
3位	連携中枢 都市圏構想 (72.0点)	連携中枢 都市圏構想 (68.7点)	連携中枢 都市圏構想 (67.2点)	連携中枢 都市圏構想 (67.8点)	連携中枢 都市圏構想 (66.2点)	連携中枢 都市圏構想 (63.0点)	行政経営 (69.3点)

(5) 分野別属性別重要度結果

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を5つ選び、その番号に○印をつけてください。（○は5つ）



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

「雇用・就労」(36.4%)の割合が最も高くなっています。以下、「子育て」(35.4%)、「高齢者福祉」(33.2%)、「学校教育」(22.7%)、「33. 防犯・交通安全・消費者対策」(22.0%)、「35. 交通・道路」(19.9%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを下記に載しました。(表2-14参照)

表2-14 これからの取組について<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	子育て (36.8%)	雇用・就労 (38.3%)
2位	雇用・就労 (34.9%)	高齢者福祉 (36.5%)
3位	高齢者福祉 (28.7%)	子育て (35.4%)
4位	学校教育 (25.7%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (22.1%)
5位	交通・道路 (23.5%)	医療 (21.6%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	子育て (46.7%)	子育て (57.1%)	子育て (53.0%)	学校教育 (39.3%)	雇用・就労 (42.6%)	高齢者福祉 (38.0%)	高齢者福祉 (41.7%)
2位	高齢者福祉 (26.7%)	雇用・就労 (42.9%)	雇用・就労 (45.0%)	子育て (37.6%)	高齢者福祉 (37.7%)	雇用・就労 (36.7%)	雇用・就労 (25.8%)
3位	計画的な 都市づくり (26.7%)	防災 (26.8%)	学校教育 (30.0%)	雇用・就労 (35.0%)	子育て (31.1%)	子育て (28.3%)	子育て (24.2%)
4位	地域産業 雇用・就労 特産品ブランド化 音楽のまちづくり 乳幼児教育・家庭教育 学校教育 自然環境 防犯・交通安全・消費者対策 交通・道路 (20.0%)	医療 (23.2%) 交通・道路 (23.2%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (25.0%)	高齢者福祉 (27.4%)	交通・道路 (27.0%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (20.5%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (23.3%)
5位			高齢者福祉 (23.0%)	交通・道路 (25.6%)	医療 (25.4%)	学校教育 (19.9%)	除去土壌等 の搬出 (18.3%)